



JAPAN UNI SUMMIT

■開催の背景

30年前、三陸には天然の昆布やわかめが生き茂り、豊かな水産業が営まれていました。

しかし、国内産のうに生産量は、ここ数年大幅に減少しており、全国的な「磯焼け」によって実入りが悪化しています。
「磯焼け」は海の砂漠化とも呼ばれ、海藻が消失する現象ですが、温暖化による海水温の上昇で、うにの活動が活発化し、餌である海藻を芽から根こそぎ食べ尽くしてしまう食害が原因の1つと考えられています。

オーストラリアでは海藻の一種であるジャイアントケルプの森が、数十年前と比較し95%以上消滅しています。まさにこれは、世界が直面する **UNiversal AGENDA(世界的検討課題)** です。

私たちは、磯焼けによる餌不足で実入りが悪くなった痩せうにを廃棄するのではなく、美味しいうにに変える「うに再生養殖」、うに殻でつくられた堆肥ブロックを用いた「藻場再生」の取り組みを行っておりますが、未だこの認知度は低く、様々な観点、手法からアプローチしていかなければならないと大きな危機感を感じております。

うに再生養殖を加速し、日本のみならず世界でのブルーカーボンの造成を促進するため、各界でリーダーシップを発揮されている皆様と一緒に『北三陸から、世界の海の未来を豊かにする』手法を検討していけたらと考えております。

■開催日

2023年7月15日～16日の2日間

■場所

洋野町役場

〒028-7914 岩手県九戸郡洋野町種市第23地割27-番地

■アジェンダ

- ・UNiversal Agendaの全体像
- ・日本の水産業を守るために出来ること
- ・世界から見る海の未来
- ・海に生きる男たちが描く、藻場再生の未来
- ・生産地で考える消費地の未来

■ディスカッションテーマ

- ・藻場再生とブルーカーボン
- ・消費者とつくる持続可能な水産業
- ・資源管理
- ・次世代育成
- ・ウニ起点の街づくり

■概要

専門家による講演とパネルディスカッション、参加者同士のネットワーキングの場を提供します。招待者のみのクローズドな場です。うに美食体験等を予定しています。

■運営元

一般社団法人moova

株式会社北三陸ファクトリー

■助成

公益財団法人日本財団

■後援

オイシックス・ラ・大地株式会社/ロート製薬株式会社/デーリー東北新聞社
岩手県/洋野町/東北リーダーズカンファレンス/カフェ・カンパニー株式会社

2023年7月15日(土) JAPAN UNI SUMMIT	2023年7月16日(日) うに祭り
12:01 八戸駅到着	7:30 バス出迎え@本八戸 ダイワロイネット前
13:45 町長挨拶@洋野町役場4Fシーガル	7:30-9:30 移動
13:55 開会の挨拶@洋野町役場4Fシーガル	9:30-10:00 うに祭り会場の洋野町へ移動
14:40 UNiversal Agendaの全体像@洋野町役場4Fシーガル	10:30-11:30 ウニ井～
14:45 写真撮影	11:00-11:30 バス乗り場(ウニーク)へ移動
14:50 休憩	11:30-12:00 洋野町出発
15:00 パネルディスカッション@洋野町役場4F シーガル/会議室 「日本の水産業を守るために出来ること」「世界から見る海の未来」	12:00-14:00 移動
15:50 休憩	14:00 八戸駅到着
16:00 パネルディスカッション@洋野町役場4F シーガル/会議室 「生産地で考える消費地の未来」「海に生きる男たちが描く、藻場再生の未来」	
16:50 休憩	
17:15 テーマ別ディスカッション @洋野町役場4F シーガル/会議室	
18:45 バスで移動 洋野町役場～北三陸ファクトリー	
19:00 デイナー「Table For Sustainability～北三陸アクアガストロノミー～」	
19:45 アクション発表～契りのうに～	
20:30 本八戸周辺(ダイワロイネット前)へ移動、各自チェックイン	

来場者数

- ・90名の参加(登壇者、参加者の合計)



2023年7月15日～16日の2日間 合計90名の参加

所属	名前
Table for Sustainability プロデューサー/内閣府 CIFP ディレクター/XPJP 価値デザイナー	渡邊 賢一
Sea Forest	辰巳正幸
牛深水産 サステナブル事業部	中村智史
株式会社オーシャンアイズ	倉石 恵
株式会社レクスポート	江利川 宗光
中島水産株式会社	藤原 暁彦
ロート製薬	菊池 容子
オイシックス・ラ・大地株式会社	高島宏平
L'Effervescence	★生江史伸
牛深水産株式会社	猪股浩成
ロート製薬株式会社	河合優
株式会社はじまりの食卓	飯塚智啓
株式会社みずほ銀行盛岡支店	西川雅之
オイシックスラ大地(株) らでいっしょばーや商 品本部 商品開発セクション	源河直也
公益財団法人笹川平和財団 理事長、政策研究 大学院大学 学長特命補佐 客員教授	角南篤
太平洋漁師	千葉豪
鎌倉マインドフルネス・ラボ株式会社	穴戸幹央
株式会社 良知経営	瀧田総一郎
株式会社みずほ銀行盛岡支店	高波雄一郎
岩手県大槌町産業振興課	芳賀 諒太
東北食べる通信・NPO三陸ボランティアダイ バーズ	阿部正幸
株式会社オーシャンアイズ	笠原 秀一
三陸ボランティアダイバーズ 代表理事	佐藤寛志
株式会社GRA 代表取締役CEO	岩佐大輝
株式会社 富藤製作所	藤岡 健彦
ICCパートナーズ/ビズリーチ	中村 俊太郎
太子食品工業株式会社	工藤 裕平
株式会社ベアレン醸造所	高田洋一
株式会社エムアンドケイ	木下孝治
プレジデント社	植野広生
株式会社菊の井	堀知佐子
株式会社 富藤製作所	大西 和信
有限会社パルチザン	山崎祥之
株式会社フィッシャー・マン・ジャパン・マーケ ティング	津田 祐樹
ZEROCO株式会社	宮谷将徳
株式会社辻田ファーム (ウニココ)	辻田 啓伸
経営企画本部 グリーン戦略室	東海林 園子
グローバルオーシャンワークス(株)	増永勇治

所属	名前
株式会社エムアンドケイ	田中 敦
Sailors for the Sea Japan Chair&CEO Susan Rockefeller Asia Representative	井植 美奈子
一般社団法人東の食の会	高橋大就
FOOD BUSINESS CONSULTING NETWORK mof	松井香保里
(ICCパートナーズ運営スタッフ) コミックス マート株式会社	福西 祐樹
築地魚河岸 丸集	出川 公平
オイシックス・ラ・大地株式会社	岡田 和祈
自由民主党・衆議院議員	小林史明
英国王立国際問題研究所 (Chatham House) 研究 員	玉木直季
一般社団法人フィッシャー・マン・ジャパン 代表 理事	阿部勝太
公益社団法人MORIUMIUS	立花貴
アクアブルー株式会社	宮村志博
ICCパートナーズ	狩野高
NPO法人ETIC.	押切 真千亜
オイシックス・ラ・大地株式会社	工藤 歩
一般社団法人ワカツク	渡辺 一馬
一般社団法人イシノマキファーム ISHNOMAKIHOPWORKS	岡 恭平
一橋大学特任教授、同名誉教授、法政大学大学 院教授、ハーバード大学Ph.D	米倉誠一郎
ICCパートナーズ / 株式会社マックス・ロフ タン	朴 理沙
インフィニティ国際学院 学院長	大谷真樹
株式会社東北アレンジャーズ	佐藤 大介
カフェ・カンパニー株式会社 代表取締役社長 /ZEROCO株式会社 代表取締役社長	楠本修二郎
ICCパートナーズ株式会社	小林 雅
株式会社カトウファーム	加藤絵美
株式会社カトウファーム	加藤晃司
株式会社ライフブリッジ	櫻井 亮太郎
オイシックス・ラ・大地(株)	天明屋 勇
一般社団法人イシノマキ・ファーム	高橋由佳
カフェ・カンパニー株式会社 / ZEROCO株式会社	市原万葉
共同テレビジョン	風間直美
ビクトリア州政府	アダム・カニン
オーストラリア大使館	宮広 雷

所属	名前
タスマニア州政府	ジョー・ゲイトン
タスマニア州政府	岡元ちよみ
ビクトリア州政府	関 俊久
True South Seafood	サイモン・レオナルド
True South Seafood	アンディ・ピン
オーストラリア大使館公使(商務)	Elizabeth Cox
北海道大学 大学院水産科学研究院	浦和寛
一般社団法人 東の食の会	木村拓哉
フリーアナウンサー/とみおかアンバサダー (福島県 富岡町)	佐々木瞳
株式会社ウオー	中川めぐみ
日本経済新聞社	朴相五
毎日新聞社	錦織祐一
株式会社シーフードレガシー	高橋 諒
Social Food Gastronomy	杉浦仁志
後楽寿司やす秀(やすみつ)	綿貫安秀
後楽寿司やす秀(やすみつ)	福島寿志

開会の挨拶/UNiversal Agendaの全体像



- ・北三陸ファクトリー CEO 下苧坪之典氏
- ・一般社団法人 moova 代表理事 眞下美紀子氏



- ・北海道大学水産科学研究科 (研究院) 准教授 浦和寛氏
- ・SeaForest/ Head of Research and Development 辰巳正幸氏
- ・レフェルヴェソンス シェフ 生江史伸氏
- ・一般社団法人 東の食の会 専務理事 高橋大就氏

パネルディスカッション



テーマ: 日本の水産業を守るために出来ること

- ・公益財団法人笹川平和財団 理事長
政策研究大学院大学 学長特命補佐、客員教授 角南篤氏
- ・自由民主党 副幹事長 衆議院議員 小林史明氏
- ・オイシックス・ラ・大地株式会社
代表取締役社長 高島宏平氏
- ・プレジデント社 dancyu編集長 植野広生氏
- ・Table for Sustainability プロデューサー
内閣府CJPF ディレクター
XPJP 価値デザイナー 渡邊賢一氏



テーマ: 海に生きる男たちが描く、藻場再生の未来

- ・L'Effervescence シェフ 生江史伸氏
- ・一般社団法人フィッシャーマンジャパン 代表理事 阿部勝太氏
- ・NPO法人三陸ボランティアダイバーズ 代表理事 佐藤寛志氏
- ・太平洋漁師 千葉豪氏
- ・一般社団法人東の食の会 専務理事 高橋大就氏

パネルディスカッション



テーマ:世界から見る海の未来

- ・一般社団法人セイラーズフォーザシー日本支局理事長
京都大学博士(地球環境学)
京都大学大学院非常勤講師
井植 美奈子氏
- ・オーストラリア大使館公使(商務)
北東アジア統括ジェネラル・マネージャー
エリザベス・コックス氏
- ・英国王立国際問題研究所
(Chatham House) 研究員
玉木直季氏
- ・北三陸ファクトリー CFO
鈴木宏和氏
- ・株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング
代表取締役社長
津田 祐樹氏



テーマ:生産地で考える消費地の未来

- ・株式会社エムアンドケイ 代表取締役社長 木下孝治氏
- ・株式会社菊の井 常務取締役 堀知佐子氏
- ・一橋大学名誉教授・法政大学教授・
ソーシャル・イノベーション・スクール学長 米倉誠一郎氏
- ・カフェ・カンパニー株式会社 代表取締役社長
ZEROCO株式会社代表取締役社長 楠本修二郎氏
- ・株式会社 GRA代表取締役CEO 岩佐大輝氏

グループディスカッション



Table For Sustainability



Social Food Gastronomy Executive Chef
後楽寿司やす秀 (四ツ谷後楽寿司二代目)

杉浦仁志氏
綿貫安秀氏

地元の素材を活かした料理「zuppa」

橘竜斗氏

Table for Sustainability プロデューサー
内閣府CJPF デイレクター
XPJP 価値デザイナー

渡邊賢一氏



メディア掲載

朝日新聞デジタル 2023.07.17

【開催報告】JAPAN UNI SUMMIT vol.0 | ウニの可能性を広げUNiversal Agendaと向き合う、「北三陸から、世界の海を豊かにする」プラットフォームが発足

日本経済新聞 2023.07.18

北三陸の海から環境ビジネス考える 初のウニ・サミット

Forbes JAPAN 2023.07.24

北三陸の「養殖ウニ」から考える持続可能な水産物の優先消費 井植 美奈子 | Official Columnist

毎日新聞 2023.08.06

「持続可能な漁業」議論 洋野でウニサミット準備会合 「世界の海の未来変えたい」／岩手

dancyu 2023.07.25

ウニ丼、焼きウニ、握り、いちご煮、ウニリゾット.....人生で最もウニをたくさん食べた二日間@岩手・その1 | 編集長・植野の食日記

SEAFOOD LEGACY 2023.08.22

北三陸から世界の海のISOYAKEを解決する。「JAPAN UNI SUMMIT vol.0」参加ブログ

日本経済新聞

トップ 速報 オピニオン 経済 政治 ビジネス 金融 マーケット マネーのまなび テック 国際 スポーツ 社会・調査 地域 文化

北三陸の海から環境ビジネス考える 初のウニ・サミット

カーボンゼロ + フォローする

2023年7月18日 14:43 [会員限定記事]

北三陸の海から特産のウニを通じ、脱炭素と第1次産業の未来を考える。そんな催しが15～16日、岩手県洋野町であった。水産業に携わる漁師や流通関係者、高級レストランのシェフ、研究者、さらには駐日オーストラリア大使館公使など約90人が海岸の小さな町に集まり、海からみた環境やビジネスの課題を共有した。

「オーストラリアでもISOYAKEという言葉は通じる」。同国シーフォレスト社の開発 (R&D) 責任者

朝刊・夕刊 LIVE Myニュース 日経会社情報 人事

「持続可能な漁業」議論 洋野でウニサミット準備会合 「世界の海の未来変えたい」／岩手

毎日新聞 2023/06/6 地方版 有料記事 1081文字



本州一の漁獲量を誇るウニの産地、岩手県洋野町で7月15、16の両日、全国各地で海洋環境保全に取り組む人たちの知見を集める「ジャパンウニサミット」の準備会合が開催され、約90人が参加した。来年に神奈川県鎌倉市で第1回を開催し、持続可能な漁業のあり方の情報発信を目指す。

同町の水産ベンチャー「北三陸ファクトリー」と、東日本大震災から東北の食の復興に取り組む一般社団法人「東の食の会」が中心となり呼び掛けた。

洋野町の海岸は遠浅で、干潮時は岩盤が現れてウニの餌となる海藻が干上がってしまい、ウニ漁には不利な環境だった。半世紀前に地元漁協を中心に岩盤に総延長

Forbes JAPAN

トップ > ライフスタイル > 食&酒 > 北三陸の「養殖ウニ」から考える持続可能な水産物の優先消費

北三陸の「養殖ウニ」から考える持続可能な水産物の優先消費

井植 美奈子 | Official Columnist



dancyu



ウニ丼、焼きウニ、握り、いちご煮、ウニリゾット.....人生で最もウニをたくさん食べた二日間@岩手・その1 | 編集長・植野の食日記 2023年7月25日 (火)

連載：編集長・植野の食日記に読むこんなものを食べています

朝日新聞 DIGITAL

TOP &w &M &Travel &Time &Human &Marinov. PRESENT & EVENT SHOPPING

PRESS RELEASE

JAPAN UNI SUMMIT vol.0 | ウニの可能性を広げUNiversal Agendaと向き合う、「北三陸から、世界の海を豊かにする」プラットフォームが発足

「北三陸から、世界の海を豊かにする」をミッションに掲げ、水産物の加工・製造・販売や持続可能な水産業

UNI SUMMITで出たアクションの現状

<藻場再生・うに養殖>

- ・大槌町役場と連携し、三陸エリアの藻場再生うに養殖事業にて協業
- ・福山市 藻場再生プロジェクトの発足(11/24,25,26)
- ・国内外におけるブルーカーボンの造成
- ・インドネシアのブルーカーボンオフセットにおける取り組み

<持続可能な水産業>

- ・世界初ウニでのMSC認証取得

<UNI起点>

- ・商品開発
- ・エリア開発事業への賛同

<その他>

- ・鎌倉コミュニティ: 第1回JAPAN UNI SUMMITの開催



- ・海洋生息地に影響を与える環境被害への対処に重点を置くこと
- ・ブルーカーボンの造成について議論すること
- ・製品のトレーサビリティを確保し、クリーンで環境に優しく安全な商品を消費者に届けること
- ・アグリテックは国内の能力と生産性を向上させるために重要な位置付けであること
- ・持続可能性対策は主要な市場ニーズであり、より選択的な好みを持つ顧客からの要求がますます高まっていること

水産サミット-現状の日本水産業



「磯焼け」防ぐ ウニ駆除の活動費支援 朝日町

03月14日 10時33分



ウニが海藻を食べ尽くすことで魚介類が減少するいわゆる「磯焼け」を防ごうと、朝日町は、新年度から漁業者らがウニを駆除する際の活動費を支援することにしました。

富山湾沿岸部の一部では、ムラサキウニやガンガゼなどのウニ類が大量に発生して、海藻を食べ尽くし海底の砂などがあらわになる、いわゆる「磯焼け」が確認されています。

「磯焼け」が進むと、海藻が茂る「藻場」がなくなり、生息する魚介類が減少するため、朝日町でも一部の漁業者らが、潜水してウニを駆除する活動を続けていますが、時間や費用などもかかり、駆除しきれないのが実情です。

このため朝日町では、町内の2つの漁業協同組合が行う「ウニ」の駆除に対して新年度から費用を支援する方針です。

宮城・石巻市のブランドサバ「金華さば」 不漁が続き人気のさば缶も製造見合わせ

12/19 (火) 16:40 # 県内 # 宮城県



例年であれば旬を迎えている宮城県石巻市のブランドサバ、金華さばの不漁が続いています。影響は加工業にも及び、缶詰の製造を見合わせる事態となっています。

青森ベビーホタテがピンチ 高水温で大量死、中国禁輸も影響

2024/1/25 17:43

× ポスト × 反応 f B! ️ ️



市場に並ぶ青森県産のベビーホタテを加工した商品など=24日、青森市

全国2位の生産量を誇る青森県のホタテ養殖が存亡の機に立たされている。昨年夏の猛暑で海水温が上昇し貝が大量死したのに加え、東京電力福島第1原発の処理水放出による中国の禁輸措置も影響。青森県産は主に1年程度の「ベビーホタテ」として人気が高い。県は専門チームを立ち上げ対策の検討を始めた。

県によると、主産地の陸奥湾で昨年、生後1年以内の稚目の5割以上、令和4年生まれの目4割弱が

第1回 JAPAN UNI SUMMITの狙い

<開催日程>

- ・2024年7月19日(金)-20日(土)@逗子地域

<現地事業者>

- ・小坪漁協 ※磯焼けが深刻な地域であり、現在うに再生養殖事業で連携をしている

<開催の目的>

- ・UNIVERSAL AGENDAの共有と自分事化
- ・参加者が当事者になり、解決していく

<AGENDA進捗 事例紹介>

- ・三陸エリアの藻場再生うに養殖事業の事例紹介
- ・福山市 藻場再生プロジェクト
- ・オーストラリアのサステナブル水産業事例紹介

<参加対象者>

生産者/漁協/水産加工会社/卸・流通/小売/メディア